

国語科学習指導案

単元名「場面の展開や表現の効果に着目して、作品を読み深めよう」

教材名「少年の日の思い出」〔学指要領：知(1)ウ、思C(1)エ〕

令和〇年〇〇月〇日(〇) 第5校時 〇年〇組教室

玉村町立玉村中学校 〇年〇組 指導者 〇〇 〇〇

I 単元の構想

1 単元の目標及び生徒の実態

	目 標	生徒の実態
知識及び技能	・事象や行為、心情を表す語句の量を増やし、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(1)ウ	
思考力、判断力、表現力等	・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。(1)エ	
学びに向かう力、人間性等	・言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを読書記録にまとめようとする。	

2 評価規準

知識・技能	・事象や行為、心情を表す語句の量を増やし、語感を磨き語彙を豊かにしている。
思考・判断・表現	・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について根拠を明確にして考えている。
主体的に学習に取り組む態度	・粘り強く進んで文章の構成や展開、表現の効果について考え、見通しをもって未来の自分へ向けての読書記録にまとめ、伝えようとしている。

3 指導及び評価、ICT活用の計画(全7時間：本時第5時) ※指導に生かす評価○、評定に用いる評価●

□C(1)化に基づいて学習状況を捉え、指導を行うが、単元の目標としていないことから評価はしない。

時	学習活動	知	思	主
1	・登場人物の設定と話の大筋を捉え、初発の感想を書く。(あ)			
2	・初発の感想を交流し、単元の課題をつかむとともに、登場人物の関係や起こった出来事について整理し、まとめる。(あ)(い) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">単元の課題 場面の展開や表現の効果、語り手に着目して作品を読み深め、未来の自分へ向けての読書記録を作ろう。</div>			○
3	・回想前半部の「僕」と「エーミール」を対比し、ちょう集めへの姿勢や人物像を捉える。(あ)(う)		□	
4	・「僕」の告白に対する「エーミール」の態度について、叙述を基に話し合うことで、一人称視点が生む表現の効果について考える。(あ)(う)	●	○	
5	・収集した大切なちょうを自分の手でつぶしたときの「僕」の思いについて、本文の表現に着目して考える。(あ)(い)(う)		○	
6	・初発の感想と現時点での自己の解釈を比べながら、未来の自分へ向けて読書記録にまとめる。(え)			●
7	・互いの読書記録を読み合い、単元の振り返りをする。		●	

*活用する学習支援ソフト等：(あ) フォーム (い) テキストマイニング (う) ジャムボード (え) スプレッドシート

4 言語活動の価値

本単元では、自身の考えを的確に表現する言葉を、叙述を根拠に他者と交流して選び、豊かな語彙の獲得につながるよう読書記録にまとめる。読書記録を読み返すことは、これまでどんな本を読んできたのかを確認できるとともに、自身の考えの変化を見つめ、作品を多角的に捉えることもできる。また、本教材は、文章の構成、表現技法の効果等を捉えやすだけでなく、同年代の心の葛藤が描かれており、心情につながる表現の解釈が読み手によって多様であるため、これらを書き記していく読書記録を始める教材として適切である。この教材をスタートとして、未来の自分に向けて読書記録を積み重ねていくことで、時を重ねた未来の自分の感想と、記録を記した時点の感想を比較するという目的をもつことができ、時間をおいて同じ作品を繰り返し読もうとする読書活動への意欲をもったり、感じ方が変化する読書の楽しさを実感したりすることができる。

II 本時の学習（5／7）

1 ねらい 大切なちょうを自分の手でつぶした「僕」の行動とその裏にある思いを考えることを通して、その表現の効果を自分なりにまとめられるようにする。

2 展開

【★ICT 活用に関する事項】

主な学習活動 予想される生徒の反応〔S〕	主な発問	○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）
<p>1 本時のめあてをつかむ。（5分）</p> <p><めあて> 収集した大切なちょうを、自分の手でつぶした「僕」の行動とその裏にある思いを考えよう。</p> <p>S：あんなにちょう集めに熱心だったのに、つぶしてしまった「僕」は、全てをなくしたかったのかな。</p>		<p>○前時までの学習内容を振り返ることができるように、これまでの学習で捉えた「僕」とエーミールの関係や、「僕」のちょう集めの様子を問いかける。</p> <p>○本時の活動への見通しをもつことができるように、「僕」が最後にとった行動とその意図を問いかける。</p>
<p>2 収集したちょうをつぶしたときの「僕」の思いが最も伝わる表現とその理由について考える。（15分）</p> <p>「収集したちょうをつぶしたときの「僕」の思いが最も伝わるとあなたが感じたのは、どの叙述でしたか。またそう考えたのはなぜですか。」</p> <p>S：「粉々に」という言葉だな。あんなに好きだったのに形なくなるまでつぶすという行動が、普通ではありえない気持ちを表していると思うな。「怒り」と書かれているのは、誰に対しての気持ちなのだろう。</p>		<p>○表現の効果に着目できるように、生徒が気付いた「一つ一つ」「粉々」「指で」等の言葉がある場合とない場合の印象の違いを問いかける。</p> <p>○複数の語句に着目して意見の交流ができるように、大型モニターで提示した教科書本文に、生徒から出された意見に関わる叙述に線を引く。</p> <p>【★提示】</p> <p>○「僕」の心情をより深く推察できるように、「僕」がちょうをつぶした行動だけでなく、「闇の中」といった情景描写や「そっと食堂に行った」様子等にも触れている生徒を意図的に指名する。</p>
<p>3 「僕」の最後の行動が表す意味や「僕」の思いについて交流し、自分なりの解釈をもつ。（20分）</p> <p>「この行動の意味を、あなたはどのように考えますか。」</p> <p>S：この行動を「怒り」と言った人もいたけれど、「償いできないもの」という言葉があることから、「後悔」の方が自分の考えに近いな。</p> <p>S：AさんやBさんの言うように、物語冒頭にある「彼の言葉「思い出をけがしてしまった」にもつながるな。</p> <p>S：「粉々に」という言葉からも、何もかも無くしてしまいたい、もう、ちょうなんて見たくないという強い後悔の気持ちが伝わってくるな。</p>		<p>○根拠となる叙述として頻繁に出された語や特徴のある語を基に話し合うことができるように、テキストマイニングにちょうをつぶした「僕」の気持ちを入力するよう促す。</p> <p>【★一覧表示】</p> <p>○根拠を明らかにした解釈となるように、自分の考えの根拠となる叙述と推察を関連付けながら交流するよう促す。</p> <p>◆評価項目（思）</p> <p>フォームの記述内容から、「大切なちょうを自分の手でつぶしたときの「僕」の気持ちを表す本文の表現の効果について、自分なりの解釈をまとめているか」を評価する。</p>
<p>4 本時の学習内容の振り返りをする。（10分）</p> <p>【★保存・提出】</p> <p><振り返り></p> <p>S：「粉々に」という言葉があることで、跡形もなく思い出を消し去りたいという「僕」の気持ちが強調されているような印象を受けた。その行為には、怒りというより自分自身を厳しく罰するような、強くて深い後悔が込められていると思う。読書記録には、そのような「僕」の強烈な後悔についてまとめた。</p>		<p>○自分なりの解釈の深まりを実感できるように、複数の振り返りを紹介するとともに、学習全体の様子を称賛する。</p> <p>【★一覧表示】</p>